

ふくしまグローバルセミナー2021

実施報告書

日 時	(1) 令和3年10月 9日 (土)	
	(2) 令和3年10月23日 (土)	
時 間	13:00~16:20	
主 催	福島県国際理解教育ネットワーク (福島県、福島県教育委員会、(公財) 福島県国際交流協会、JICA二本松)	
実施方法	オンライン (ZOOM)	
参加者数	(1) 令和3年10月 9日 (土)	32名
	(2) 令和3年10月23日 (土)	28名

○グローバルセミナーとは

グローバルセミナーは、二本松市にJICAの青年海外協力隊訓練所が設置されたことを契機に、1997年に「東日本国際協力セミナー」という名称でスタートし、2021年をもって通算で24回目の実施となりました。

例年はJICA二本松訓練所にて、1泊2日の対面形式で開催していたところですが、新型コロナウイルス感染症対策として、今回は初めてオンラインで実施することになりました。

過去に参加された方々の中には、国際協力を専門的に学べる学校に進学した方や青年海外協力隊に参加された方、国際協力を行うための活動に乗り出した方など、行動を起こした方々が数多くおり、セミナーの開催趣旨である人材育成に少なからず寄与できているのも、参加者一人一人が本セミナーにおいて深く学び、真摯に思いを受け止めてくださった賜物にほかなりません。

2003年からは、福島県内の学校や地域における国際理解教育の普及や質の向上などの推進のために、福島県国際課・福島県教育委員会・JICA二本松（独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局二本松青年海外協力隊訓練所）・(公財)福島県国際交流協会の4団体が連携・協力して、より効果的に事業を展開していこうと組織された「**福島県国際理解教育ネットワーク Fukushima International Education Network (F I E N E T ・ フィーネット)**」の事業として主催しており、講師を含めた参加者の皆さんにより、意義を強く感じるセミナーに育っていることに深く感謝いたします。

○セミナーレポート

10月9日 セッション①

パラレルキャリアでマイペンライ!?～タイで知った多様性～

Sapaan Thai 代表 (公財) 福島県国際交流協会 国際理解講座外部講師
竹田 有理さん

実際にタイで生活した経験から、「パラレルキャリア」、「多様性」についてお話しいただきました。「パラレルキャリア」(複数の経歴を持つこと)による本業と社外活動の相乗効果で人生が豊かになり、そこで築いた人脈もかけがえのないものになること、「みんなちがってもよい」として「多様性」を尊重するタイの人々の考え方を紹介いただきました。



参加者の声

- ◇ タイの事例から多様性について詳しく学ぶことができました。これからは、固定的な思い込みや観点から自由となり、世界について学んでいきたいと強く思いました。
- ◇ タイの人々の生活、特に性の多様性と職業の多様性に驚きました。また、パラレルキャリアのことを知り、自分で様々なことに挑戦して自分の居場所を広げていくことが大切なのだと思います。

10月9日 セッション②

とても身近な「海外で働く」ということ

青年海外協力隊 (ルワンダ派遣)
前田 尋貴さん

ルワンダでの青年海外協力隊員としての活動を通して、海外で働く意義についてお話しいただきました。ルワンダ語の壁や地域の人々に受け入れてもらえるのだろうか当初は様々な不安を抱えていた前田さんでしたが、仕事も文化も自分から積極的に学んでいくことで、その不安が小さくなっていったそうです。海外で働くことは、決してハードルは高くなく、自分の心がけ次第であり、実は身近なことであることについて教えてくださいました。

① **言葉の壁**

- ・ルワンダ語の必要性に気づく
- ・完璧である必要はない、伝えたいという思い
- ・日々の自分のアップデートを!

② **馴染めるのか**

- ・初めはそっけない印象
- ・時間が経つにつれて、心を開いてくれる!
- ・日本に住んでいても同じではないか?

③ **実践経験**

- ・分からないことを受け入れる
- ・誰からでも素直に聞いて、学ぶ。仕事も文化も。
- ・字んだと、それを知らない人と共有すればいい!

農家さんとの活動

参加者の声

- ◇ 実際に現地へ行って活動している方のお話を聴けて貴重な体験になりました。私も青年海外協力隊になりたいと考えているので勉強になりました。海外で働くことは自分から程遠いと感じる必要は無いんだ、自分にできることはあるということが分かりました。
- ◇ 私は将来青年海外協力隊になりたいと思っている中で、講師の先生と同じような悩みを持っていました。しかし、先生が話していた「意外と何とかなる。自分のペースで！」ということを知って、どこか今までの不安に思っていたことがすっきりしたように感じました。今できることを探し、実践していきたいと思いました。

10月9日 セッション③

“就学”って大事なの？ ～不就学クラスへ通う子どもたちから見たこと～

社会福祉法人せんねん村
川上 貴美恵さん

日本で働くために来日した家族の置かれた現状や、日本に来ることによって不就学になってしまった外国にルーツのある子どもたちの実態等について、事例を基に紹介していただきました。多文化共生を進めていこうとしている日本では、大勢の人にとっての「あたりまえ」が、誰に対しても「あたりまえ」であってほしいということ、誰もが自分らしく暮らしていけることは、人生の満足度が高まり、幸せな社会につながるということについて教えていただきました。

私の気になる点は、

事例に挙げた子どもは、母国で過ごしていたら不就学になっていたか？

- ⇒日本は、受入れ態勢が不十分？
- ⇒言葉や文化の異なる人(子ども)が自分らしく(=母語や母文化を押し殺さず)育つことができる環境がどのくらいある？

参加者の声

- ◇ 不就学ということを今回のセミナーで初めて聞いたのですが、話を聞いていて、何で今まで知らなかったのだろうと自分に対して恥ずかしさを感じました。話を聞いて自分自身に置き換えて考えた時に、当事者たちは本当に心が痛い思いをしているんだなと感じました。知らなかったことを知り、考えることができたので、これで終わりにせず、家族や友人に話して伝えていきたいと思いました。
- ◇ 不就学という状況のことを今回のお話で初めて聞きました。外国人の方々の中で就学の手続き等が分からない場合があるという話もあり、施設の存在はとても重要だなと思いました。またこれからグローバル化が進む中でこのようなサポートが出来る仕組みや施設が他の地域にも増えるといいなと感じました。

10月23日 セッション①

ドイツを体験しよう！まるごとドイツ

ドイツデュースブルク・エッセン大学大学院生
クルーテン 陽子さん

現地は朝6時！早朝のドイツから講演していただきました。ドイツの食べ物、伝統行事、お城などのドイツの魅力についてクイズを通して知ることができました。特にビール、ソーセージ、パンの種類の多さや、豚肉を生で食べる料理には驚いた参加者も多かったようです。

最後には、伝統的なベートーヴェンの「喜びの歌」の映像を見て、まさにタイトルどおりドイツをまるごと体験したような感覚になる講演でした。



参加者の声

- ◇ ドイツのコロナウイルス対策がとても厳重で、日本とは違って徹底的に予防に努めているんだなと感じました。ビールやパン、ソーセージだけで何千もの種類があるというのは初耳でした。
- ◇ ドイツの料理や文化を沢山知って、わたしもいつか行きたいと思いました。どの町にもお城があるということでいつかお城を沢山見に行きたいです！

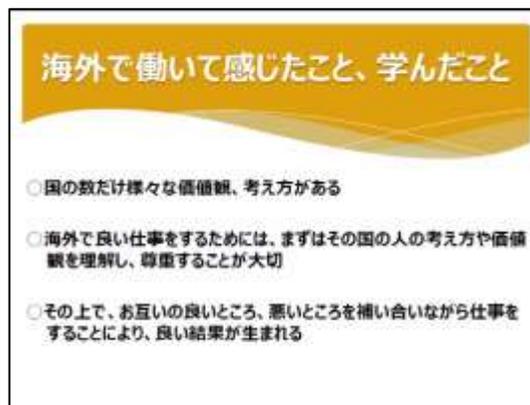
10月23日 セッション②

郷に入っては郷に従え？ ～海外で働いてみて～

福島県国際課
菅家 郷史さん

福島県職員として、外務省及び在インドネシア日本国大使館に出向した経験を元に、太平洋島嶼国やインドネシアの地理や文化、大使館の仕事について紹介いただきました。国民の気質や宗教など、文化の異なる国で仕事をする上での苦労もうかがえました。

「海外への挑戦は難しいと考えるかもしれないが、意外と大丈夫。大抵のことは、一歩踏み出せばうまくいきます」と、これから海外で働くかもしれない若者に対するアドバイスもいただきました。



参加者の声

- ◇ チャレンジすることが大切だとおっしゃっていたのを実践しようと思った。
- ◇ インドネシアの詳細を知らなかったなので、面積の広さや人口の多さに驚いた。また、回線が遅いという事実も初耳だった。
- ◇ 外務省の業務や島嶼国の実情に触れることができた。

10月23日 セッション③

オランダと日本の多様性 ～共通点と違い～

郡山市国際政策課
ヨースト・クラルトさん

オランダが多くの民族を受け入れてきたという歴史が寛容の国と言われる所以であり、その一方で、共和主義か社会主義か、カトリックかプロテスタントかの違いによって、見る新聞や放送局、受ける教育も違う柱状化の時代があったことなどを、図や映像を活用してわかりやすく説明いただきました。また、移民のアイデンティティなど、今のオランダ

が抱える問題にも言及がありました。

日本はどうすればいいのかについては、在留外国人を日本の一員として考え、格差がないように、暮らしやすいようにしてもらいたいというお話をいただきました。



参加者の声

- ◇ オランダが大好きなのでとても興味深く拝聴致しました。今後少子化の中で在留外国人が増えると予想されます。違った文化を持つ方々、そしてルーツを持つ方々と日本の仲間としてどのようにしていったらよいか問題提起もしていただきました。
- ◇ オランダという国の寛容さに日本も学ばなければいけないなど感じるころがあつて、大変興味深い内容でした。長い歴史の中でずっと受け継がれてきた文化が失われてしまうことは残念なことだけれど、人種差別の問題に関わっているかもしれないと考慮して”寛容に”でその解決策を見いだすという姿勢に感銘を受けました。

○参加者の皆さんと



御参加いただきありがとうございました。
また次回、お会いできるのを楽しみにしています。